

ディスプレイの色がにおいの感じ方に及ぼす影響

○牛腸ヒロミ* 高木史恵* 児島愛** 勢畑章子** 小見山二郎**
 (*聖徳栄養短大 **実践女大)

〈目的〉 これまで布、紙、液体の色がにおいの感じ方にどのように影響するかを調べて来た。これらが“色”の影響であることを確かめるため、今回はディスプレイ上に映し出した赤～黒の8つの単一色を見ながら、前回と同じように、普通に感じる程度に調整した12種類の単一の化学成分のにおいを、女子学生に嗅いでもらい、SD法による官能検査を行なった。結果を主因子法で解析してこれまでの結果を統一的に理解することを試みた。

〈実験〉 透明なガラス瓶に各におい物質の0.01～1%流動パラフィン溶液を20～50 μ l入れ、においの試料とした。標準色試料をデジタルカメラで撮影し、ビデオを経由して、6台のテレビ上に各ディスプレイの色相と輝度が同じになるように、映し出した。これを見ながら各色10人のランダムに抽出した女子大生に嗅いでもらい、においの感じ方をSD法で申告させた。結果を主因子分析法で解析した。

〈結果〉 においの感じ方の第1因子はこれまでと同じように快～不快であった。リモネンの第1因子の得点は快でその大きさは色によらないが、イソ吉草酸は不快でやはりほとんど色によらない。第1因子が快であるが色に大きく依存する γ -デカラクトンやペリラルデヒドなどのにおいと、色によって快～不快が逆転する α -ピネンやローズ-Pなどがあり、色が物体色であるか光源色であるかによらず、色のおいへの感じ方に対する影響の仕方にルールがあることが分かった。第2因子以下についても考察する。